

宮城県における子育て支援の実態（3）

— 保育所での地域子育て支援活動の問題点と課題 —

杉山 弘子・佐藤 陽子・石田 一彦・東 義也

宮城県内の全認可保育所310か所を対象に2003年度の地域子育て支援活動の実施状況と課題について質問紙調査を行った。質問紙の回収率は72.6%であった。その一部として、支援活動をしている園に実施してみても問題点や課題を自由記述式で尋ねた。実施園の内、子育て支援センターが設置されている園では、保護者主体の支援や保護者同士のつながりをどう援助するかが課題としてあげられた。また、センターのない園では、専用の場所がない、専任の担当者がいないなど、条件の問題が多くあげられた。参加者が少なく、支援活動を広く知らせていくことも課題とされている。また、両者とも、支援を必要としながら参加してこない親たちをどう支えるかという問題をあげていた。

次に、地域子育て支援活動を実施していない園も含め、全ての園に対し、保育所での地域子育て支援活動についての意見を自由記述式で尋ねた。センターの有無に関わらず、親子の身近にあって気軽に来所できる場であることや保育所の特性を生かした支援をめざしているとする意見が共通して見られた。支援を行っていない園も含めて支援活動を行うためには条件づくりが大事であることが指摘されており、通常の保育がゆとりをもって行われる状況にあることが、地域子育て支援がより多くの園で取り組まれるための前提であると考えられる。

キーワード：保育所、地域子育て支援、子育て支援センター

<問 題>

育児不安の広がりや少子化が進行する中、保育所や幼稚園には在園児の保育のみならず、地域の全ての親子を視野にいれた支援が期待され、求められるようになってきた。これまで蓄積されてきた子育てについての知識や経験、子どもが安全に、また発達にふさわしい活動ができるよう整えられた環境、そして、実際に子どもたちが遊び、生活している場であることを生かして、育児相談や園庭開放、遊びの会など、さまざまな取り組みがなされている。しかし、その実施状況や課題には、待機児童が多い地域と定員割れの見られる地域、保育所と幼稚園、さらにはそれぞれの園の実情によっても違いが見られるであろう。

筆者らは2003年11月から2004年2月にかけて宮城県A市内の保育所7か所（公立6園、公設民営1園）と幼稚園4か所（いずれも公立）を訪問し、地域の親子を対象にした遊びの会等の見学と各園の支援活動についての聞き取り調査を行った。全ての園で地域子育て支援活動が行われていたが、乳幼児のいる家庭が多い地域かどうかによって、また、近隣の保育所同士でも、子育て支援センターが置かれている園は利用者が多く、センターのない園は少ないというように、支援センターの有無によって利用状況に違いが見られた。センターのないある園では、利用者が少ない理由として、専用の場所がなく親子の居場所がないことをあげていた。一方、センターが設置されているある園では、専用の場所が狭いことを問題としていた。いずれも支

援活動専用の場所の問題を指摘している点では共通している。

子育て支援を充実させていくためには、こうした実態を把握することが重要と考える。そこで、筆者らは宮城県内の全ての認可保育所と幼稚園を対象に、2003年度の地域子育て支援活動についての質問紙調査を行った。実施状況と遊びの会及び育児講座の課題については、すでに報告したところである（杉山他、2006；東他、2006）。子育て支援センターが設置されている保育所や一部の保育所・幼稚園を除き、多くの園では専用の場所や専任の担当者の配置がない中で支援活動を行っていることがわかった。また、センターのある園においても、条件の改善や内容の充実を図ることを課題にしていることが窺われた。

本稿では、保育所を対象にした質問紙調査の結果の分析を進め、地域子育て支援活動を実施してみたの問題点や課題、及び保育所での地域子育て支援活動についての意見を自由記述式で尋ねた結果を報告する。これらの結果を検討し、保育所における地域子育て支援の問題点と課題、及び保育所の特性を生かした地域子育て支援のあり方を考察することが本稿の目的である。

<方 法>

1. 対象：宮城県内の全ての認可保育所310か所（分園4か所を含む）を対象にした。内訳は、仙台市内97か所（公立50か所、私立47か所）、仙台市外213か所（公立173か所、私立40か所）である。
2. 時期：2004年2月末に質問紙を配布し、同年3月に回収した。
3. 配布と回収の方法：仙台市の公立保育所については、仙台市健康福祉局子ども家庭部保育課を通して配布した。その他は郵送で行った。回収は全て郵送である。
4. 質問紙の構成と分析の対象：本研究で分析の対象とするのは、地域子育て支援活動を実施してみたの問題点と今後の課題、および、保育所での地域子育て支援活動についての意見を自由記述式で尋ねた結果である。質問紙ではこれらの他に、保育所の概要と地域子育て支援活動の実施の有無、地域子育て支援活動の実施形態、園内で実施している地域子育て支援活動の内容と形態、園外で実施している地域子育て支援活動の内容と形態、遊びの会の実施状況と課題、育児講座の実施状況と課題について尋ねている。

<結 果>

1. 回収率と地域子育て支援活動の実施状況

310園中225園から回答があった。回収率は72.6%である。所在地別に見ると、仙台市内が77.3%、仙台市外は65.3%である（所在地無答11）。公私別では公立73.5%、私立69.0%、無答1である。

園児以外の地域の親子を対象とした子育て支援活動を実施しているかを尋ねたところ225園中149園（66.2%）で実施されていた。仙台市内では80%、仙台市外では59.7%が実施していると回答している。実施率を公私別に見ると、仙台市内は公立が92.7%で私立が64.7%、仙台市外は公立が60.3%、私立が56.5%であった。

2. 地域子育て支援活動を実施してみたの問題点と今後の課題

地域子育て支援活動を実施してみたの問題点および課題を自由記述式で尋ねた。表1に示し

た通り、149園中113園から有効な回答があった。センターの有無で見ると、センターありの39園中31園、センターなしの106園中80園、センターについては無答の4園中2園が回答している。

表1 問題点・課題の回答状況

	支援実施園	問題等回答園
センターあり	39	31
センターなし	106	80
無答	4	2
計	149	113

1) センターが設置されている園での問題点と課題

センターのある園が記述している内容を分類し、表2に示した。1つの園が複数の内容を記述している場合には、それぞれのカテゴリーでカウントされている。大きくは、①支援活動のねらいの達成や内容の充実に関わること、②条件に関わること、③他機関との連携に関わること、④参加しない親子への支援に関わること、⑤その他、安全や交通手段の確保に関わること等に分けられる。

表2 センターが設置されている園での問題点と課題

カテゴリー	主 内 容	園数	
ねらい・内容	保護者主体	お膳立てする支援から保護者自身が考えて活動できる支援に／育児サークルが主体的に活動できる支援が難しい	6
	内容組立・充実	活動内容の充実／限られた予算と日程の中での内容の充実／幅広い事業計画を立てる	4
	サークル育成・支援	グループ育成の手法に課題。他地区の支援の仕方について情報を収集しながら実施していきたい／サークル活動を活発化できるように関わり合っていきたい	4
	親（親子）同士交流	親同士の交流をコンセプトにしているがなかなか成果があがらない／親子とも友達の輪ができにくく支援が必要	2
	参加姿勢	集団に無理に参加させようとする。親同士の話に夢中。子どもを一人で遊ばせておく	1
	サポーター育成	子育てサポーターの育成を目指したい	1
条件	場所の問題	場所が狭くて要求に応えきれない／専用の場所がない	5
	担当者の問題	対応する人員の問題で要求に応えきれない／人材の関係で出前保育を数多くはやれない／一時保育で手一杯	5
	予算の問題	支援センターの予算が毎年減られ、赤字運営／限られた予算の中での活動／講座について予算面で苦労している	3
	情報・資料不足	様々な要望に応えるべき、支援する側の情報・資料不足／講座・講演会の講師の選び方に苦労している	2
	栄養指導	栄養士が常駐ではないのですぐに伝えられない	1
連携	他機関紹介	他機関への紹介が望ましい人への対応	2
	他機関連携	増える参加者を役割分担しながら受け入れる／相談機能を果たすための関係機関の連携	2
	一施設での限界	センターが一施設のみでは限界がある／増え続ける参加者に対応するためには1か所の園だけでは無理がある	2
参加者	不参加者への支援	(必要としながら) 支援の場に訪れない人への支援／途中から不参加の親子への支援	7
	参加者が少ない	親のニーズを捕らえながら子育て講演会を計画しても参加者が少ない	1
	地域状況把握	地域の子どもも少ないが、個々の状況を把握する情報も少ない	1
	P R	もっと広く知らせていきたい	1
その他	来所手段	交通の関係上、来所できない家庭がある／駐車場が不足している	3
	安全面	親が側にも怪我や事故が見られる	1
	回数増困難	遊びの会の回数増要望に応えられない	1

ねらいや内容に関する記述を見ると、保護者が主体的に活動できるよう支援することをあげた園が6園ある。親同士・親子同士の交流の他、サークルの育成・支援（4園）やサポーターの養成（1園）も課題としてあげられている。また、活動内容の充実を図りたいとする記述が4園にあった。条件に関わることでは、場所の問題（5園）や担当者の不足（5園）があげら

れている。そのために親たちの要求に応えきれないという記述もある。他に、予算が少ないこと（3園）や支援のための情報の不足等があげられている。他機関との連携に関わることで、他機関を紹介するのが望ましい人への対応があげられている（2園）。また、増え続ける参加者を受け入れるための連携が課題とされている。一方、支援を必要としながら参加していない親子への支援をあげた園が7園あった。なお、表2の分類を越えて全体として見たときに、増大する親たちの要求に応えきれないという記述が6園に見られた。

2) センターが設置されていない園での問題点と課題

表3 センターが設置されていない園での問題点と課題

カテゴリー	主 内 容	園数	
内 容	内容組立・充実	年齢差に応じた内容の組立／参加人数増加に伴って、内容等の検討を細めに行うこと／真の地域に根ざしたものになっているか／地域の親子が何を求めているのかを探り、地域にあった活動をしていくことが必要	10
	継続参加	イベント的に楽しただけでなく、継続参加してもらい、子育てに役立ててもらえるにはどうしたらよいか／サロン参加者の予測がつかず、準備が難しい／毎回新しいメンバーが参加するので、継続性のあるものに取り組みたい	3
	親（親子）同士交流	行事と合わせて実施しているので、話し合いなど、交流の場が少なかった／参加親子同士の行事後のつながりがあればよいと思うが手だてをこうじていない	2
	在園児との交流	参加児童と在園児との交流／在園児と交流しあえる内容も盛り込みたい	2
	参加姿勢	子どもをただ遊ばせ、親同士ダベリングをしたいよう	1
	サロン	子育てサロンを園でも行いたい	1
方 法	時間設定	保育所と家庭の生活時間にずれがある。参加しやすい時間設定が必要／生活時間の違いで、イベントに遅れてくる場合も多い。園庭開放でも保育所の昼食、午睡の時間に遊びにくる子もある／来所の時間が遅く、在園児とふれ合う時間が少ない	4
	支援方法	表面からは捕らえにくい悩みの引き出し方等／保育所内での育児相談事業で遠慮があったよう。遊びの支援の中で担当に相談する人はけっこういた／全体の子どもの中で過ごすのは難しい。小集団で活動できる家庭的な雰囲気を設定したい	3
条 件	担当者の問題	片手間だと十分に相談にのったりできないので専任の担当が必要／利用しやすい時間帯を設定するには人と場の確保が難しい／担当者が兼務のため、十分な対応ができない／回数を増やしたいが人的に難しい／参加者が増え、担当保育士二人では対応できない	20
	場所の問題	空き室がないため、親たちが情報交換しあえる場の提供ができない／利用しやすい時間帯を設定するには人と場の確保が難しい／ハード面で保育所に余裕がなく、支援室など、ほっとできる場所の整備が求められる／専用室がないので、調理に参加するなど設備等がないので課題／サロンの場が望まれるがスペースがない／場所が狭い	17
	予算の問題	年間50万円の助成金での実施なので限界がある／費用面でギリギリ／費用の確保が必要	7
	体制上の問題	担当者だけでは多様な要求に応えきれないので、他の職員が援助するのが、通常保育、一時保育との関係で難しいこともある／入所児への対応で精一杯の現状（物的、人的面）／基本的な保育士の人数増員のないままに「支援」だけが大きく、必要になっている現実／天候によって参加人数が変動する。常時開放すればよいのだが、職員体制上難しく、今後の課題	7
	日常保育への影響	加配のない状況での実施で、合同保育や所長の介助を必要とし、入所児に多少なりとも支障をきたしたと思う	1
連 携	他機関連携	地域の人たちから出向いてくるのが少ないので、保健師と連携しながらかかわっていくことが必要／近くにできる児童館と連携をとり、親子がどちらも活用できるようにしていく／発達相談、食事相談など、保健師、栄養士との連携が必要	5
	ネットワーク化	ネットワークづくりを進めながら保育所開放を実施していきたい／保育所が何もかも抱え込まず、ネットワーク化を図り、支援を充実することが大切	2
参 加 者	PR	PR方法とできる事、受け入れられる人数との関係で悩むことがあった／PR不足。PRの仕方を工夫する必要がある	15
	参加者が少ない	体験保育や遊ぼう会など、内容を工夫しているが参加者が少ない／講座参加者が少ない	9
	不参加者支援	支援を必要としている人が利用していない／地域の人たちから出向いてくるのが少ないので、保健師と連携しながらかかわっていくことが必要／本当に必要としている家庭の発掘や出前保育必要／待つだけでなく出向いていく支援を考えていきたい／保育園になかなか入りにくいという人がいる。身近に感じてもらえる努力が必要	9
	地域状況把握	地域に小さい子どもがいないのか、いるけれど出てこないのか把握できていない／地域に支援を必要としている人や参加希望者がいるのかつかめない	2
そ の 他	駐車場不足	駐車場の確保が大変	1
	事故への対応	事故等への対応の仕方が明確にマニュアル化されていない	1
	不審者対策	園庭等を開放し、気軽に園で遊べるように配慮しているが、不法侵入者等の問題もあり、どのような方法が最善か検討したい。	1
	回数増困難	もっと回数を増やしたいと思うが現状では難しい	1
センター要望	町にセンターがないので早急な設立を求めている（保育所も予備室がないので）	1	

次に、センターが設置されていない園の記述内容を分類した結果を表3に示した。大きくは、①支援活動の内容と方法に関わること、②条件に関わること、③他機関との連携に関わること、④参加者の広がりに関すること、⑤その他、に分けられる。

内容と方法に関しては、年齢差がある、参加者が一定しないなどの状況の中で、内容をどう充実させていくかを課題としている。また、家庭と保育所との生活時間のズレをどう考慮するか、親たちが話しやすい相談活動の形態等、方法に関する課題もあげられている。条件については、多くの園が担当者の問題（20園）と場所の問題（17園）をあげている。予算や体制上の問題（それぞれ7園）がそれに続いている。日常の保育への影響をあげた園も1園あった。連携に関わることとしては、保健師や栄養士との連携、児童館との連携、ネットワーク化があげられていた。参加者の広がりに関することとして、PR不足やPRを工夫する必要などが多く上げられている（15園）。また、参加者が少ない問題や支援に参加してこない親子への積極的なアプローチの必要性があげられている（それぞれ9園）。

3. 保育所での地域子育て支援活動についての意見

子育てをめぐる地域の状況や保育所の特性を生かした支援のあり方など、保育所での地域子育て支援活動についての意見を尋ねた。表4に示した通り、225園中142園から有効な回答があった。センターの有無で見ると、センターありの39園中27園、センターなしで支援活動を行っている106園中73園、支援活動を実施していないとする73園中37園が回答している。

表4 支援活動についての意見回答状況

	質問紙回答園	意見回答園
支援実施・センターあり	39	27
支援実施・センターなし	106	73
支援実施・センター無答	4	2
支援実施していない	73	37
支援実施無答	3	3
計	225	142

1) センターが設置されている園の意見

センターが設置されている園の意見を主な内容から6つのグループに分けた。その特徴と例（意見の要旨）を以下に記す。

①保育所および子育て支援のあり方（9園）

子育て家庭の身近にあって、気軽に遊びに行けたり、困ったときに相談できる保育所でありたいとする記述がある（4園）。また、地域に応じた支援事業の特徴があってよいとする意見や、以下のように地域に根ざした支援の大切さを述べた意見があった（5園）。

- コンビニのようにすぐ近くにある、すぐに行けて、遊んだり、困った時に相談できる保育所があることが望ましい。
- 地域の子育て家庭に開かれた保育園であることで十分。困ったときに気軽に行ける場所でありたい。園庭は広場でありたい。保育者は育児のプロ集団として常に勉強し、子育て家庭を支えていく必要がある。基盤となる保育所の保育をきちんとした上での地域支援であり、まずは保育ありきを心におきたい。
- 保育所には車がないとこれないので、出向く方法、回数を多くする必要がある。地域の状況の把握が支援活動のポイントになると思うのでリサーチが必要。保育所だけでなく、地域の資源、他の施設とのつながりを持つことが大事。

②保育所の特性を生かした支援（5園）

保育所には子どもたちの姿があり、子育てについてアドバイスができる保育者がいる。また、子どもの安全に配慮された生活の場である。こうした保育所の基本的な特性を生かした支援のあり方についての記述が見られる。

- 母親の声として「集団で遊ぶ経験を」「母親同士で友だちを作る場を」がたくさんあがっている。そのような場を多く作って行くと共に、保育所内にセンターがあるという特性を生かして、保育所の子どもたちと遊べる場や園を開放して遊んでもらう日を設けている。
- 母親はほっとできる場、友だちを求めていることがよくわかる。おばあちゃんにとっても大事な息抜きの場になっている。保育園の子ども姿を見ているだけでも参考になっているよう。不安なこと、家庭のこと等、悩み事は多岐にわたる。答えは本人がもっていることが話しているうちにわかる。担当者の力量も求められる。

③親支援（3園）

家族関係など親の持つ様々な問題の解決を支援することが子育てで支援になるという意見。

- 相談の背景に家族問題が見える。それらを救うことで子育ての援助につながることを実感している。
- 世代間の違いが母親の悩み、ストレス、不安の要因につながる。母親達に祖父母の知恵を伝え、センターだよりを通し祖父母に情報を伝え、家族で、地域で育児していける方法を工夫していきたい。

④保育者の認識（2園）

入所児童の保育のみならず地域の親子を対象にした支援活動が保育所に求められていることを保育者が認識することが大切であるとする意見。

- 入所した者への支援をしてきた経緯から、保育士が地域というものをとらえられていない。地域の中での自分たちの役割を再認識していく必要がある。まだまだ子育て支援は保護者のニーズとかみあわないことが多い。行政が本腰を入れて対策をねらなければ、女性が子どもを産み育てなくなる社会にはならない。

⑤連携・ネットワーク（4園）

地域のネットワーク中での支援、子育てを地域全体で支えていくことが大切であるとする意見。

- 必要な人の来所は少ないのではないか。地域のネットワークの中で面としての活動をしていくこと、それには人と金が必要。子育てにもっとお金を使ってもいいのではないか。
- 育児をストレスとする親をまるごと受けとめて地域全体で子育てを進めていく支援者が必要。その役目が子育て支援センターにある。保育所の保育士の専門性をいかしながら、地域に根ざした活動が今後必要。

⑥条件の問題（4園）

子育て支援の実施や充実のためには、人的配置を増やすなど、条件の改善が求められるとする意見。

- 入所児の他に地域の子育て支援もとなると、人員の確保も困難で、保育士の質の向上も目指す必要があり、現場では日々苦戦を強いられている
- 保育所の生活の様子に参加してもらいたい。とくに給食を見てほしいと思うが人的、予算的になかなか難しい。土曜日に保育所開放をしていて、参加者が多くなり、人的配置も今後考えていかなければいけないと思っている。

2) センターが設置されていないが支援活動を実施している園の意見

支援センターはないが支援活動をしている106園中73園が支援活動についての意見を述べている。これらを主な内容から8つのグループに分けた。

①地域に開かれた保育所（16園）

親子が気軽に来所できるような地域に開かれた保育所でありたいという趣旨の意見が16園に見られた。親子が身近な所で支援を受けられるよう、センターのない園も含め、全ての保育所ができる範囲での支援活動をすることが大切であるとする意見も見られた。

- 地域に根ざした子育て支援をしていきたいので、常に門戸を開放し、いつでも地域の人が気軽に尋ねてこ

られるような体制に近づけていきたい。

- センターのない保育所では多くの親子を受け入れるには難しさがあるが、必要な人がいつでも利用できるように、常に情報を提供しながら地域にアピールしていく必要がある。いつでも行けるという安心感を提供できる場として、地域に根ざしていきたい。
- センターのない保育所では場所や人の問題でできないこともあるが、親子が身近にある保育所に気軽に遊びに行き、子どもの成長を親とともに共感したり、時に育児相談したりする環境が必要と思われる。すべての保育所でできる範囲で子育て支援ができればよいと思う。研修を受けたりして“すべての保育所”という思いを強く受けた。

②保育所の特性を生かした支援（7園）

親達が保育所で生活する子どもの姿を見ることや保育者からアドバイスを受けること、安全な場であることなど保育所の特性を生かした支援ができるというものである。

- 母子にとって安全な保育所にふつうに来て自然に遊び帰って行くのが保育所の支援と考える。母子のペースを大事に、適度に集団で遊べる保障をするのがベター。
- 子育て相談に応じたり、子どものかかわり方を伝えたり、食についても伝えられる。
- 地域の親子が安全な遊び場として利用したり、子育ての知恵を学んだり、同年齢の子と遊べるように体験保育を進めることが当保育所でできる支援活動かと思う。
- 子どもの姿が少ない。児童館も活動している。できる範囲の中で、普段の保育の中に参加してもらい、同年齢の子どもと遊んだり、親同士や職員とのコミュニケーションの場になればと思う。

③職員の認識（3園）

通常の保育を行いながら地域の親子への支援にも取り組むためには、職員一人ひとりが支援の必要性を認識していることが大切とする意見。

- 無理せず、今の状況からできることをしている。フリーを担当にし、その年度により色々工夫して取り組んでいるので、支援の必要性を職員一人一人が意識しているかがとても大事。
- 保育をしながらの取り組みなので難しいこともあるが、職員全員が支援の意識を高めながら、できる範囲の中でがんばっていくことが大切。

④出前保育・サロン（8園）

出前すなわち地域に出向いての支援活動をしたいという園が7園、サロンがほしいという園が1園あった。

- どこにもでない人のための出前保育、ボランティア活用など、オリジナルなやり方と工夫が課題。保健師らとの連携も大切。
- 育児不安を持つ人が多いと言われる中、保育所の果たす役割は大きい。所庭に遊びに来た人達と話す中で悩みを聞いてあげられることもあるが、気軽に利用できる育児サロンのような場がほしいと思う。

⑤他機関との連携や地域全体での支援（9園）

他機関との連携が必要とする意見が7園、地域全体での支援が大切とする意見が2園にあった。

- 支援を必要としている家庭が多くなっている。他機関との連携が必要。
- 親へのケアのため保健師等との協力が必要。
- 町で実施している子育て支援事業と連携をとり、必要な情報の提供をしたい。地域ぐるみ・町ぐるみの支援体制が必要。

⑥条件の問題・センターの設置（7園）

専任の職員がいない、専用の場所がないなどの条件から十分な支援活動ができないとする意見（4園）やセンターが必要という意見（3園）が見られた。

- 専門の職員が必要。
- 支援の部屋があればいつでも利用でき、気軽に相談を受けたりできるが、現状では期日を決めた実施方法しかない。
- 専任者がいて、年齢制限や時間制限がなく、いつでも遊びにこられる、頼ってこられる独自のセンターが各地に必要。

- センターを設置し日常的支援につなげることを町全体で検討してほしい。

⑦親の求める支援（7園）

親達の要求が親同士の交流にあるとするものやその認識の上で実施している活動について述べている。

- 保育所側の「親子一緒に」のねらいと子どもから少し離れた時間を求める親の意識とのズレ
- 母親達は母親同士が集うことに目的があるよう。現保育所においてはサロンを提供することは条件的に難しい。
- 自由に来所し、親同士が自由に過ごす場が大切。計画された内容での活動の後、安全に配慮しながら親同士の交流を見守っている。
- 親同士の交流が子育てを安定させる。
- 親同士のネットワークづくりの橋渡しが必要。

⑧その他

上記の他、子育て支援のニーズの把握が必要というもの（4園）、入所児の対応に迫られている（1園）、在園児の保育が優先（1園）、一般財源化で保育所予算が厳しくなっており、新しい事業への取り組みが難しい（1園）などの意見が見られた。また、次のような出前をしている園の記述も見られた。

- 祖父母が子育ての代役をしている。交通手段の関係で来園できないので、園の側から遊びの場を提供に集会所や地域センターに向いている。

3) 支援活動を行っていない園の意見

地域の親子を対象とした支援活動を「実施していない」と回答していた73園中37園から回答があった。記述内容を分類し、その組み合わせによって回答の概要を示したのが表5である。他項目で実施していないと回答しているが、12園に支援活動を実施していることを示す記述が見られた。園庭開放のみ行っている、子育ての自主グループの支援をしている、他機関と共

表5 地域子育て支援活動を行っていない園の回答内容

内容 パターン	実 施	計 画	積極的	消極的	在園児 優 先	通常 の 保 育 で 手 一 杯	条 件 づ く り	行政の 問 題	他	園 数
1	○									4
2	○	○								5
3	○			○						1
4	○								○	2
5		○								4
6		○			○					1
7		○				○				1
8			○							3
9			○		○					1
10			○			○				3
11			○				○			3
12			○						○	1
13				○						2
14				○		○				1
15						○				1
16							○			1
17								○		3
園 数	12	11	11	4	2	6	4	3	3	37

注) ○はパターンにその内容が含まれていることを示す。

同で実施している（園単独では実施していない）等の内容であった。また、これらの内の5園を含め11園が今後の支援活動の計画に言及していた。保育所が地域の親子を対象にした支援活動を行うことについて、必要である、あるいは積極的に行うべきとする意見が11園に見られた（積極的意見）。他方、地域の親子を対象にした支援活動は子育て支援センターに委ねたい、あるいは園独自では必要ないとする意見も4園に見られた（消極的意見）。

通常の保育との関係に言及した記載もある。在園児の保育が優先という内容が2園に、在園児の保育で手一杯で地域支援にまで手が回らないという記述が6園に見られる。さらに、実施するときには人的配置や保育者の研修などの条件づくりが大事であることに言及した意見が4園に見られた。また、財政難のために子育て支援が進まない現状など、行政の問題に触れた記述も3園に見られた。

<考 察>

1. 地域子育て支援活動を実施してみたの問題点と今後の課題

センターが設置されている園の場合、保護者が主体的に活動できるよう支援することが重要な課題となっていると推察される。親同士・親子同士の交流やサークルの育成・支援が課題としてあげられているのも、親同士のつながりの中で主体的に子育てに関わる活動を担い、支え合っていけるようになることを支援のねらいにしているためと考えられる。サポーターの養成も課題としてあげられている。また、保護者のニーズに応えるためにも、内容の充実のためにも場所の確保と担当者の配置など、条件の改善が必要とされている。参加してこない親子への支援と増え続ける参加者への対応という一見矛盾する課題があげられているが、地域の親子を広く対象にいれながらきめ細やかな支援をめざしていることの現れと考えられる。そのための条件の整備が求められていると言えよう。予算の問題が大きいことが窺われる。他機関との連携では、他機関を紹介するのが望ましい人への対応があげられている。当該の親子にとって必要な支援は何か、それを担える機関はどこかなど、地域の子育て支援システムについての情報を持ち、つながりあって支援することの重要性を示している。

センターが設置されていない園の場合、参加する子どもの年齢幅や参加者の変動がある中で、活動内容をどう組立て充実させていくかが課題となっている。また、担当者や場所、予算や体制上の問題など、条件面での問題が大きい。内容の組立の問題もこれらの条件が整えられる中で改善していく面があると考えられる。もう一つは、参加者の広がり的问题である。支援活動を行っていることをどう知らせるかという課題と参加してこない親子への支援の方法が課題とされている。

内容の充実を図ることはどのような場合にも大切なことであるが、今回の調査では、支援センターの有無に関わらず条件の問題が関連していることが注目される。さらにセンターのある所では、保護者を主体にした支援を課題としているところが特徴となっている。また、参加してこない親子への支援は共通の課題であるが、センターのある園では増大する参加者への対応が、一方、センターのないところでは参加者が少ないことを問題にしている点が対照的である。広報の違いによるものか、支援活動の形態や内容の違いによるものかなど、保護者のニーズとの関連も含めて検討の必要があろう。

2. 保育所での地域子育て支援活動についての意見

支援活動を行っている園ではセンターの有無に関わらず、子育て家庭の身近にあって、いつでも遊びに來たり相談したりできる存在でありたいという意見が多く見られる。また、保育所の特性を生かした支援をしたいとする意見も一定数見られる。そのためにも園全体の職員が地域子育て支援活動の必要性を認識していることが重要になる。センターのない所では担当者や場所の問題で活動が限られてくるが、できる範囲でよいから支援活動を行うことが大事であるとする意見がある一方、地域子育て支援はセンターに委ねたいとする意見もある。支援活動を行っていない園も含め、通常の保育で精一杯という現状から支援活動の難しさを指摘する意見もあった。センターの有無に関わらず支援を行うためには、地域子育て支援のための条件を整備するとともに、通常の保育においてもゆとりのある条件が確保されることが重要であると言えよう。

センターのある園には、家族関係など親の持つ様々な問題の解決を支援することが子育て支援になるという意見が見られる。センターのあるなしに関わらず、來園する親達の求めていることは何か、求められる支援とは何かをとらえることは重要である。親達は交流を求めているが必ずしも自分達が主体となって活動することを求めているわけではない現状が窺われる。その実態をどう見て、支援の方向性をどう持つかが課題と言えよう。

センターの有無に関わらず、他機関との連携とネットワークを形成しての支援の必要性が指摘されている。センターのない園の中には、出前保育を行いたいという記述が多く見られた。センターのあるところではある程度進んでいる取り組みであるが、支援を必要としている親子の身近で活動することで参加しやすい状況をつくりたいという意向である。親達の要求に応えたサロンとともに、これからの取り組みとして広がっていくことが予想される。

支援活動を行っていないと回答した園の中にも、園庭開放や行事参加などの支援活動を実施している園があることがわかった。センターを設置している園に比べ、活動内容や日程が限られていることから実施していないとの回答になったのかもしれない。

保育所が地域の親子を対象にした支援活動を行うことについては積極的な意見と、数は少ないが消極的な意見の両方が見られた。在園児の保育で手一杯という記述や実施するときには人的配置や保育者の研修などの条件づくりが大事という指摘もあり、実施していない理由として条件の問題が大きいことが窺われる。在園児の保育が優先であるという考えは、実施している園の記述にも見られた。先にも述べたことであるが、通常の保育がゆとりをもって行われる条件にあることが、地域子育て支援がより多くの園で取り組まれるための前提であることが明らかになったと言えよう。

<文 献>

- 1) 伊志嶺美津子・新澤誠治『21世紀の子育て支援・家庭支援』フレーベル館、2003
- 2) 植田章『はじめての子育て支援』かもがわ出版、2001
- 3) 金谷京子・坪井敏純・吉田ゆり「子育て支援の限界と今後の課題—保育所を中心とした子育て支援活動の調査から—」『保育学研究』第43号第1号 pp.63-75、2005
- 4) 神田直子・山本理絵「乳幼児を持つ親の、地域子育て支援センター事業に対する意識に関する研究—子育て支援事業参加者と非参加者の比較から—」『保育学研究』第39号第2号 pp.80-86、2001
- 5) 桑名恵子編著『子育て支援のネットワークづくり』明治図書、1999
- 6) 子育てセンター実践研究会・編『子育て支援実践報告61』生活ジャーナル、2000

- 7) 新澤誠治・今井和子『家庭との連携と子育て支援』ミネルヴァ書房、2000
- 8) 杉山弘子・東義也・石田一彦・佐藤陽子「宮城県における子育て支援の実態（1）—保育所における地域子育て支援活動—」『尚綱学院大学紀要』第52集、pp.29-42、2006
- 9) 高田さおり「保育現場の特性と資源を生かした保育所地域子育て支援活動」『日本発達心理学会第15回大会発表論文集』p.133、2004
- 10) 乳児保育研究会『新版 資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房、2005
- 11) 橋本真紀・扇田朋子・多田みゆき・藤田豊子・西村真実「保育所併設型地域子育て支援センターの現状と課題—A県下の地域子育て支援センターの職員と地域事業担当者、保育所保育従事者の比較調査から—」第43号第1号 pp.76-89、2005
- 12) 原田正文『みんな「未熟な親」なんだ—グループ子育てのすすめ—』農山漁村文化協会、1999
- 12) 原田正文「子育て現場の実態に即した次世代育成支援策を！—「大阪レポート」から二三年後の子育て実態調査「兵庫レポート」が示すもの」『発達』通巻第101号、ミネルヴァ書房、pp.24-27、2005
- 13) 東義也・杉山弘子・佐藤陽子・石田一彦「宮城県における子育て支援の実態（2）—幼稚園における地域子育て支援活動—」『尚綱学院大学紀要』第52集、pp.43-52、2006

<謝 辞>

調査にご協力下さいました仙台市健康福祉局子ども家庭部保育課ならびに宮城県内の保育所のみなさまに深く感謝申し上げます。

<付 記>

本稿で分析の対象とした質問紙調査は、筆者らと本学保育科の森彬教授との共同研究として実施したものであることを付記いたします。

